



白桜小だより

平成 28 年度 10 月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 28 年 9 月 30 日発行

「POSITIVE SWITCH」

副校長 藤原 留美子

リオオリンピックの感動冷めやらぬままパラリンピックが閉幕しました。パラリピアン¹の活躍、そして挑戦を続ける生き方から、私達は感動と、自身をポジティブにする力をもらいました。フラッグハンドオーバーセレモニーで4連続のバク転を成功させたダンサーの大前光市さんは、「障がいとは特別な才能であり、生きるための強力な味方にもなる」と語っています。

本校4年生は、総合的な学習の時間「心のバリアフリー」で、障がいのある方との共生をテーマに学習を深めています。人は心の中に意識的に、無意識的にバリアを作っています。そのバリアを低くしたり無くしたり出来るのは、自身の力です。先月10日の学校公開日では、NPO法人「みんなのダンスフィールド」の皆さんをお招きして、ワークショップを行っていただきました。このフィールドでは、子どもや大人、男の人や女の人、車いすの人や車いすではない人・・・様々な人が、お互いの個性を活かしながら、共にからだでの表現を創り合っています。（「みんなのダンスフィールド」紹介パンフレットより）

【ダンスフィールドの皆さんへ】

- ・（前略）障がいがあっても無くてもみんな同じなんだと思います。障がいがあっても同じ所にいて、同じ事をしていけばみんな同じ。この前みたいにみんなでダンスをしていけば何があっても同じダンスをしている仲間だから、みんな同じだという事がすごく分かりました。
- ・しょうがいは、すごく高いかべだと思えます。でもみなさん、そのかべをかるがるこえて楽しくおどっていたので元気をもらえました。小さい子からお年よりまで楽しくみんなびょうどうにえがおあふれるチームだと思えました。（後略）
- ・命があればなんでもできるんだなと思えました。（中略）手と手を合わせておどるということが初めてだったので、ちょっとわらったところもあったけれど、みんなでわになったり、みんなであそんだりしながらおどれるのは、ゆめみたいでした。とてもダンス楽しかったです。

車いすユーザーの方々とタッチした手のぬくもりに導かれるようにフィールドに出て、思いのままに表現する子どもたちの解き放たれた表情から、共に表現する喜びを心底感じていることが伝わってきました。今まで抱いたことのない感情だったことでしょうか。「POSITIVE SWITCH」が入った瞬間でもありました。

【保護者の方の感想より】

- ・（前略）ダンスフィールドのみなさんにはるばる来ていただき、子供達と過ごす時間は、心の垣根を低くするかけがえのない時間だったと思います。ビデオのダンスは想像以上に美しく、今日、趣旨のよくわかった子供のダンスは素敵でした。パラリンピックのまっただ中、タイムリーな企画でした。

【生活指導部よりお願い】

先月末、「秋の全国交通安全運動」が実施されました。白桜小においても日頃から児童に対し、自転車の乗り方や交通ルールを守ることについての指導を行っています。

最近、ご来校いただく際に、自転車の後部座席にお子様を乗せ、かなりの速さで正門に入って来られる保護者の方も見られます。大変危険で、大事に至ることも予想されます。

ぜひ、この機会に交通ルール・マナーの遵守を再確認していただければと思います。